

第47回 議会改革推進特別委員会記録

令和7年3月4日（火）

開議 11時 01分

閉議 12時 03分

第4委員会室

【委 員】 牛尾委員長、西田副委員長

三浦委員、村武委員、小川委員、布施委員、佐々木委員、~~田畑委員~~

【議長団・委員外議員】

【事務局】 下間局長、松井次長、小寺書記

議題

1 議会によるAI、ChatGPTの活用について

(1) 研修会の方向性

2 議会図書室の活用状況の検証について

(1) 活用率を上げるためのアイデア

3 今後の議会改革の視点について

(1) 委員間で協議

4 その他

(1) 検討項目一覧の更新

(2) 委員会活動レポート（Vo1. 77）の原稿

○次回開催 4 月 10 日（木） 午後 1 時 30 分 全員協議会室

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[11 時 01 分 開議]

○牛尾委員長

第47回議会改革推進特別委員会を開会する。なお、本日は田畑委員から欠席届が出ている。定足数には達しているため、早速議題に入る。

1 議会によるAI、ChatGPTの活用について

(1) 研修会の方向性

○牛尾委員長

事務局から説明をお願いします。

○小寺書記

(以下、資料を基に説明)

○牛尾委員長

このような回答があった。勉強会については会派でも相談されたいと伝えていたと思うが、どうだっただろうか。

○布施委員

C h a t G P Tについてメリットとデメリットの情報が混じっているので判断は難しい。やるなら議会改革推進特別委員会でやって、C h a t G P Tとはこういうものだというのを共有した上で、全体でやるなら改選後にしてはどうかとの話だった。

○佐々木委員

未知の世界なので、ぜひやってほしい。

○三浦委員

基本は個々の話かとは思いますが、全体で活用すれば業務効率化されるという側面から仕様について勉強しようということであれば、ぜひ参加させていただく。

○西田副委員長

有効活用する方向で、スタートラインの基本から勉強するのは良いことである。

○牛尾委員長

多少の温度差はあるものの、やる方向で一致していたように思う。案として、特別委員会を中心にしながらも委員外議員の参加も自由という勉強会にしてはどうかと思うが、どうだろうか。

○西田副委員長

せっかくの機会である。まだ議会運営委員会には話をされてないとのことだが、全体的にはやる方向のようなので、同じ経費を使うならできれば全体で研修を受けたほうが、市議会としてメリットが大きいのでは。

○布施委員

私は個人でC h a t G P Tの研修を受けたが、2時間では終わらない。導入、危険性、議会での活用事例を出して実践までやったのだが4時間はかかった。上辺だけの

理解で変な使い方を議会でやってほしくないと講師が言われた。自分の考え方を持ってやるなら良いが、フェイク情報が混じることもあるので段階を追わないといけないとも言われた。時間を確認した上での開催が望ましい。

○牛尾委員長

早稲田の講師は、こちらの要望時間に合わせて組み立てる形ではなかったか。

○小寺書記

そのように見えたが、研修時間については要相談かと思う。

○牛尾委員長

当委員会から議会運営委員会に申入れをしようか。つながらなかった場合は当委員会主催でやるという、二段構えでどうだろうか。

○三浦委員

せっかく研修するなら全議員が参加できる形でやったほうが効果も高いと思う。また、特別委員会で勉強会をやるとなると委員会の経費を使ってやることになるかと思う。ほかに取り組みたいこともある中での優先順位としてどうなのか、合意を図りながら進められたい。限られた予算を優先度の高い活動に使うよう整理ができていけば良い。

○牛尾委員長

とりあえず正副委員長から議会運営委員会の委員長に、議会運営委員会にお願いできないか申入れすることを第一段階とする。局長、どうだろうか。

○下間局長

良いと思う。特別委員会で開催することになった場合でも、ほかの議員も参加可能にすることはできると思う。まずは全体研修として議会運営委員会でやる方向でどうかと諮る。議会運営委員会主催の研修は基本的に全議員必ず出席するスタンスになる。そういう方向で進めて良いか諮る。その結果、まずは特別委員会でやる方向で決まれば、特別委員会主催の研修として視察旅費を使う。

○牛尾委員長

令和6年度の視察はしていないので、視察研修旅費は残っているはずである。年度をまたぐ場合は令和6年度の予算は繰り越せないのか。

○下間局長

はい。

○牛尾委員長

繰り越せないとのことなので、三浦委員の言うように、優先順位を絞り込まないといけない。とりあえず議会運営委員会に申入れをしてみる。もし皆から視察先の候補があれば、日程的には非常に窮屈でほとんど不可能だが、予算が消える前に使う必要もあるかと思うがどうだろうか。年度内は難しいだろうか。

○小寺書記

難しい。

○牛尾委員長

難しいことは分かっているが、議会は合議体なので了解をいただいておかないと。ぜひここという場があればだが、そうでなければ令和6年度の予算がもし消えてしまってもやむを得ないということでご了解をいただいてよろしいか。

(「はい」という声あり)

では、今年度はやむを得ず断念するということで区切りを付けたい。

2 議会図書室の活用状況の検証について

(1) 活用率を上げるためのアイデア

○牛尾委員長

正副委員長で知恵を絞ってみた。団体貸出とシェアする本棚があるのだが、例えば西田委員は家業で木を扱っておられるので、入り口の壁に告知用看板などを設置するといったやり方もある。また、現在議会事務局に一覧表が貼ってあるが、あれを各会派ドアの内側に貼ってもらうのはどうか。この程度のアイデアしか出なかった。書籍は皆自分のお金で買って各自勉強されているので、その上というのは負担になるかと思ったのだが、せっかく立ち上げたものなので、もう少し皆が本を借りて読んでくれる仕掛けを、努力してみたらどうかというのが正副委員長の意見である。

○布施委員

書籍離れというか、どうしてもデジタルに頼ってしまう状況である。せっかく議会図書室があるのだから使おうと言っても、数人からは強制されることはないと言われた。例えば定例会議会期中は会派ごとに使用日を割り当てて、図書室に立ち寄る時間を設けたらどうかと思った。定期的に訪れて情報収集する観点で、情報収集するならデジタルが早いのでそちらが良いのだが、図書室の利用を促すなら会派として利用するアイデアはどうだろうかと思った。

○佐々木委員

委員長が言われた案は良いと思った。デジタルの情報収集も良いが、最近は図書館の重要性や、本を買って想像力を働かせながら読む行為自体が見直されつつある。本を読んでみていろいろなことが伝わって取り入れられるので、議会活動をする上でも読書は非常に重要だと思う。それをいかに仕掛けていくかという視点で、先ほどの告知方法は良いと思った。

○三浦委員

こういう本が届いているということを周知するのが第一なので、言われたように各会派室のドアに一覧を貼ったり、全員協議会の際に入った本のジャンルも告知したりすれば良い。情報収集のための一つの場所として取り組むものなので、自分では出会わない情報に触れる機会がそこにあることに価値がある。意味合いを理解してもらい、ふらっと入って本を手にとってめくるだけでも有効活用できるのではないかな。中央図書館と連携した機能が議会フロアにあることに価値がある。継続してほしい。

○小川委員

私自身はあまり活用してなかった。もともとは議会図書室の活用というテーマか

ら始まり、中央図書館のレファレンス機能との連携は画期的な取組だった。ただ、手にとるところまで至ってないのが現状である。正副委員長から案があったような告知があれば、より距離が近く活用しやすくなる可能性を感じる。せっかくあるなら活用に向けて、会派でも積極的に取り組んでみようではないかと話している。少しの工夫でより距離が短くなれば、活用の可能性も出てくる。

○村武委員

周知が必要かと思う。今も事務局からLINE WORKSで周知はもらっているが、掲示板の中に議会図書室関係通知というカテゴリーがあるのは、申し訳ないが気付かなかった。こういうカテゴリーがあることを皆に知ってもらうことも必要である。

また、図書室に入る機会も大切である。ウェブ会議での利用などもできたはずなので、それも周知してもらいたい。

さらに、シェアする本棚の図書に情報誌などがあっても良いのではという意見が会派内から出た。旬の情報が入るものだと思うので置く期間が短めでも良いのでは。皆、あそこが議会図書室だとは分かっているし良く通るところだと思うが、入る機会がどうしても少ない。先ほど委員長が言われたような、図書室という表示が表にあっても良い。私自身、団体貸出でお願いした本を今回の一般質問で参考にした。こういった事例を会派内で話題にすることも必要かと思った。

○牛尾委員長

正副委員長からアイデアを出した、告知方法をもう少し積極的に伝わる形で早速計画してみようと思う。皆からも良いアイデアが出た。あまり脱線してはいけないのだが、ヨシタケコーヒーを入れる名人が友人にいたので来てもらって、ヨシタケコーヒーを飲みながら自分の好きな書籍を読む会をやっても良いとも思った。図書室をキーにして語り合う、サロンのような空間にしても良いのではないかと考えた。とりあえず告知方法についてはやってみる。

3 今後の議会改革の視点について

(1) 委員間で協議

○牛尾委員長

今後の調査テーマが中段に3点ある。ランキングが全てではないが、3千を超える自治体議会が参加して自分たちの議会改革度の物差しにしている現状があるので、並行して追いかけていかなければいけないテーマである。皆の認識はどうだろうか。

○三浦委員

この3点はいずれも重要な視点である。ただ、当市議会ではここ数年、広報広聴活動の質を高めることにも取り組んでいる。今我々が取り組んでいることがしっかりとできているのかを検証しながら、新しいことよりは今やっていることの質を高めていくほうが、浜田市議会らしさが出て良いのでは。この方向性は非常に網羅されていて、重要な視点と認識した。

○牛尾委員長

何市か議会改革の視察を受けたが、議会報告会の会場数に皆驚いておられた。三浦委員の言われるように、市民の意見をさらにどう吸収しながら反映していくかは必要なことである。

はまだ市民一日議会（以下、市民一日議会）について、結構市民は市民一日議会を見ておられるようで、あの場での発言について指摘を受けた。市民一日議会では市民の代表が話されて、議員として意見を言う。もう少し注意や用意をして発言するべきと感じた。

現状の検証を含めて、さらに磨いていくことが大事だとの意見があったが、ほかに意見はないか。

○佐々木委員

市民一日議会の話は結構聞く。非常に良い評価で、市民にも浸透している。出られた方に取材に行かれたと聞いた。追いかけて政策に反映するのは主権者教育の分野に入るのではないかと思う。

一方で、議会報告会は市街地の参加者が少ない。会派として意見も言った。こちらから参加を募ってもなかなか出にくい状況である。例えば、ぜひ市議会にこういうことを求めたい、言いたいといった団体や町内会なら、より住民の意見を反映させる場になりやすいだろう。こちらが行くから来て何か言ってくれ、ではなかなか住民意見を反映させる場になりにくい。悪く言えば一方的に言いたいことだけ言われるケースもあって、それを反映させるのはなかなか難しい。主権者の参画を考えた議会との関わり方に持っていく必要がある。テーマはそういうことを深掘りさせることも書いてあるので良いと思う。

分らないのが1点目の政策力の強化である。新しい技術とは何を指すのか。それから、3点目の議会機能の強化に、事務局を含めた点が非常に大きい。陰ながら努力されている事務局の力が大きいと、議員誰もが思っていると思う。何よりこういった会議がすぐに市民へ向けて発信されることは評価が高い。事務局から出される良い意見をどんどん議会が吸収し改革していくという機能強化は非常に重要である。

○牛尾委員長

新しい技術とは、おそらくデジタル技術ということなのだろう。

○下間局長

上に、A I などと書いてある。A I なども活用しながら、政策形成や提言を議会として行っていくことも必要ということである。

○佐々木委員

A I 自体が良く分らない。

○牛尾委員長

今回の一般質問は市長の進退を問うたが、C h a t G P T の3.5に質問するとすぐ答えが返ってきた。例えば、新人市長が立候補する場合の市長ビジョンの立て方や、再選を目指す市長が掲げるテーマなどを質問すると、すぐ答えが出てくる。それを見ると、半分は自分でも思い付くが、もう半分は新しい視点だった。それがプラスにな

ることもあれば、情報が必ずしも正しいとは限らないこともある。それを踏まえながら使うと便利である。

○布施委員

学習能力があるので、明らかに間違った回答に正しい答えを返すと学習する。

○牛尾委員長

回答をさらに深掘りしたければ絞り込んだ質問を求められる。使い勝手は良いが、流されないよううまく使う必要がある。

○佐々木委員

苦勞しなくなるというか、汗をかかなくなるというか。自分で苦勞したものが自分の中に残っていると思う。

○布施委員

子どもがタブレットを使う時代。我々も良いところを利用すれば良い。どこに利用するか自体を勉強していかなければいけない。議会でやるにしても温度差があるが、もしやるなら誤報もあることは踏まえるべきだと講師が言っていた。

○小川委員

議会機能強化は今までずっと当委員会でも言われていた。議会力を高めるとか、チーム議会とかいうテーマもあった気がする。先ほど話に出たように、動画がもう上がっていたと市民に驚かれたこともあるくらいである。表に出るのは政策提言などにどう結び付けるかなので、政策討論会などで具体的に進めていくのも、議員の力だけではなかなか難しい。議会事務局と協力して一緒に進むのが本来のチーム議会の姿かと思う。しかし市職員も少ない中でコンサルにお願いしなければいけないという話もある。議員それぞれに思いはあるだろうが、議会事務局に投げ掛けることすら難しい。リファレンス機能にしても相当な労力を使っているにも関わらず、なかなか活用できてないという反省もある。議会改革の本筋を目指さなければいけない中で、現在何をやるのか検証する必要もあるのかもしれない。

○牛尾委員長

先日の全員協議会で議長から、政策討論会について再度呼び掛けてもらった。そういうものがもう少し機能して日常的に動いていれば、昨日の自由討議でももう少し絡み合うところへ行くのか、訓練がまだできてないからそこまで行かないのか。

実は正副委員長で打合せをした際に、議会図書室などいろいろな関係で事務局に相当負担になっているような話を聞いた。議会図書室を何とか動かしたい思いでいろいろやってきたが、いろいろ言っても最終的に動くのはほとんど事務局ではないかと。そこで当然負担になる。なるべく避けるためにどうすれば良いのかも議会自身が考えなければいけないと思っているが、行動が伴わず事務局の負担になっているのは間違いない。チーム議会、議会事務局職員は議会と一緒にだという話の流れは毎回出るが、そういうことが負担なのだろうと思う。実際どうなのだろうか。外部から議会改革の視察に見えた方には書記から説明してくれるのだが、事務局がここまでしてくれるのだと議員が感心される。議員団も先方の事務局も、とても浜田の事務局には太刀打ち

できないという印象をおそらく持って帰られているのではないかと思います。非常に良くやってもらっている。ただ、チーム議会と言って事務局だけに負荷を与えないように、議会改革の中で考えていくのも一つの柱なのだろう。

○西田委員

事務局的な仕事をされる人は、ミスを起こさないようにすごく気を遣われている。ささいなことでも言われる社会になっている。しかし、人間なので体調やいろいろな理由でミスもあれば至らない点もあって当たり前である。7、8割できればあとのことは許せば良いと思うのだが、できるだけ完璧なものを目指されているので、周辺の我々もある程度のことは許せる環境、負担を少しでも減らす方向性は精神的にも大事だと思う。一々細かいことを言わなければ良いという個人的な思いである。

○議長

事務局が作ってくれたフロー図がある。これに全部網羅されていると思う。政策立案するために、市民参画もあるし、機能強化もある、それに伴って施策提言・政策立案もやる。これは議長として議会の説明をする際にいつも用いている。非常によくできたフロー図だと思っている。ここを強化していくことによって議会改革が進んでいくのではないかと考えている。これを参考にしながらやるのがベストだと思う。

○牛尾委員長

この図はすごく参考になる。絶えず懷に持ってなければいけない。この中でどこが欠けているかは一目瞭然である。その辺を今後さらに追及していけば良い。この件はこの程度で置かせていただく。

4 その他

(1) 検討項目一覧の更新

○牛尾委員長

その他の検討項目で今は四つ出ている。1番の建築物検討委員会は事務局と一緒に建築事務所に行っているいろいろな話を聞いたが、サマーレビューの時点で議会が絡むことがあれば可能性はあるという話になったものの、現行ではなかなか難しいと思う。

○小寺書記

議会改革に関する検討項目について、こちらは一覧表を更新したものである。2ページの下部には、議会における事務事業評価のことと政策討論会のあり方を、検討が完了した項目として載せている。残っているのが、視察を受けての2件と、もともとあった分、それに先般佐々木委員から提案のあった、市への要望・提言書等に対する対応状況の検証について追加している。これを基に今後当委員会で協議を進めていくのだが、行政視察を受けての追加検討項目についてはまた、次回の議題として皆からご意見をいただこうと思っている。

○牛尾委員長

今日は時間がないので、この件については次回に検討させてもらうこととしたい。皆に考えていただきたいのは1ページ目の、多様な人材が議員に立候補しやすい環境

整備について。これの先進事例が北海道登別市議会である。特別委員会の経費では現地視察は無理なのでオンラインになるかと思うが、それを新年度の視察候補として上げておくので、皆からほかの候補があれば言ってもらいたい。登別市議会はランキングを一気に駆け上がった形なのだが、議長が北海道のほとんどの市議会に声を掛けて、後継者育成をどうするか、議員の学校相談といったものをやっている。我々は中国5県内では2年連続ナンバーワンなので、そういう意味では視察に行ける先進地が近隣にない。よほど優れた事例があれば行ってみたい。

(2) 委員会活動レポート (Vol. 77) の原稿

○牛尾委員長

今回の委員会活動レポートは、佐々木委員にお願いできないだろうか。最近のこの特別委員会の流れについての原稿を300字程度で書いてもらいたい。

○佐々木委員

最近とはいつ頃からか。

○牛尾委員長

前回は図書館のレファレンス機能についてだったので、その次の流れについてお願いします。

○佐々木委員

はい。

○小寺書記

内容もこの委員会で決めていただいたほうが良い。

○牛尾委員長

佐々木委員に書いてもらう内容は何が良いか。

○佐々木委員

事務事業評価は書いたらどうか。

○小寺書記

試行をしたことは書いたが、本格実施についてはまだ触れてない。

○牛尾委員長

例えば図書館の有効利用を考えたが結果が振るわず、さらにいろいろなアイデアを出したことも書いてもらえば良い。

○小寺書記

限られたスペースなので、テーマは一つに絞ったほうが良いかと思う。

○牛尾委員長

事務事業評価は議員側の検証という佐々木委員がいつも言われていることと重なる部分があるのでしっかり書いてもらえば良い。

○佐々木委員

持論を書くわけにもいかない。

○牛尾委員長

委員それぞれにも自分のモチベーションがあるのだから、それをしっかり書いてもらって良いと思う。願います。

次回の日程を決めたい。

(以下、日程調整)

それでは、次回開催日は4月10日の13時30分ということで、よろしくお願いします。各委員から何かほかに意見はないか。

(「なし」という声あり)

では、以上で第47回議会改革推進特別委員会を終了する。

[12 時 03 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

議会改革推進特別委員会委員長 牛 尾 昭